

平成20年度事業報告書

自：平成20年4月 1日

至：平成21年3月31日

I. 総括

今年度は、社団の認知度の向上と事業対象の国際化を重視して業務を遂行した。事業も計画に比して116%と、概ね着実に実行され所期の成果を収めた。

特に成果があったのは、ライダー愛好者を対象とした事業や中国からの観光客も含む観光資源事業であった。

その一方で、道内からの事業参加は低調であった。

II. 内部体制

1. 特に成果のあった点

- ・ 次年度以降に向け、新たな運航スタッフを確保できた。
- ・ 新公益法人移行の工程について、成案を得た。

2. 改善を要する点

- (1) 地上支援ボランティア・スタッフが依然として固定化しており、システムの有り方も含めて検討が必要である。
- (2) たきかわスカイパーク内各施設の老朽化対策について、滝川市も含めて検討が必要である。

III. 実施事業

1. スカイスポーツの啓発普及に関する事業

(1) 市内各小中学校の体験授業の受入

- ・ 特に成果のあった点…初めて、中学校の参加を得た。
江部乙中 37名(5/10)、西小 88名(6/18)、第一小 59名(10/29)、
第三小 75名(10/30)
- ・ 改善を要する点…参加校の拡大と実施要領について学校側と要協議

(2) 学校を対象としたスカイスポーツ普及事業の実施

道内外の教育関係団体関係者 309名の施設見学を受入れた。

6月 3日(火) 滝川東小学校 67名(施設見学)

6月 24日(火) 兵庫県生野学園 33名(体験搭乗…高校修学旅行)

6月28日(土)	浦臼町ジュニアライダー	25名(施設見学)
7月4日(金)	深川多度志小学校	10名(施設見学)
	二の坂保育所	32名(施設見学)
9月3日(水)	歌志内小学校	10名(施設見学)
9月18日(木)	滝川幼稚園	81名(施設見学)
10月16日(木)	滝川第一小学校	11名(施設見学)

・検討事項；地上における体験メニューの創出

(3) ジュニアグライダークラブの活動の支援

- ・全般的に活動が低調であった。
- ・検討事項；空に興味を抱かせる方策は？

(4) こどもの日特別企画「こどもたちに大空のプレゼント」の実施

開催日：5月5日(月・祝日)

対象：市内外の小学生

体験飛行応募総数：155名(前年比7名増)

体験者数：71名(前年比18名増)

内容：体験飛行、施設見学、紙飛行機製作

(5) グライダー等による体験飛行会

① 滝川市民を対象とした無料体験飛行会の実施

開催日：7月21日(月)～7月25日(金)

参加者：325名(前年対比122名減)

- ・改善を要する点：実施日に週末を考慮する

② 一般市民対象の体験飛行会

4月22日(火)～11月6日(木)

- ・知名度のUPに伴い、逐年体験者数が増加している。
体験メニューの増が、顧客満足度に寄与している。

807名(前年対比41名の増)

- ・検討事項；他地域との連携、

③ HOSP A体験飛行会の支援

主催：(社)北海道スカイスports協会

開催日：6月28日（土）

参加者：12名

2. スカイスportsによる観光資源及び産業の開発

(1) 「2008 北海道スカイスportsフェアイン滝川」を開催した。

主催；(社)北海道スカイスports協会

滝川スカイスportsフェア実行委員会

開催日：7月27日（日）

来場者数：6,000名

(2) 地域観光事業への協力

・修学旅行生の受入れ(6/24)

33名

・地元宿泊施設との事業連携

・ジンギスカンまつりへの参加（デモ飛行）

(3) 「そらぷちキャンプ」への協力

「そらぷちキッズキャンプ事業」の趣旨に協賛して、サマー・キャンプのグライダー体験プログラムを担当した。

実施日：7月20日（日） ボランティア研修：28名

8月 3日（日） キャンプ参加者：26名

8月11日（月） 同上：28名

9月13～15日 キャンプツアー体験者：12名

(4) グライダーキャンプの受入

本年度も実施する大学等は無かった。

・検討事項；合同合宿形式+人的サポート態勢を構築した受入

(5) 古典機事業

対象としている機体保有者の事情により、次年度に見送られた。

・検討事項；運営のシステムづくり

3. スカイスports航空機の操縦技術等の向上と指導者の養成

(1) 各種操縦に関する指導

① グライダースクール

フリー受付：シーズン中の平日に随時実施

- 延べ飛行日数：54日（前年比2日減）
飛行回数：377回（前年比192回減）
飛行時間：294時間35分（前年比30時間25分減）
・改善を要する点：本州地域へのPR手法

② サマートレーニングコース

1週間単位のコースを8回実施

参加人員：118名

（前年比16名減）

飛行回数：1,509回

（前年比79回減）

飛行時間：792時間30分

（前年比16時間38分増）

第1回：6月30日～7月5日 参加人員14名（前年比4名減）

第2回：7月7日～7月12日 参加人員8名（前年比5名減）

第3回：8月4日～8月9日 参加人員13名（前年比5名増）

第4回：8月18日～8月23日 参加人員14名（前年比2名減）

第5回：8月25日～8月30日 参加人員16名（前年比6名減）

第6回：9月8日～9月13日 参加人員19名（前年同数）

第7回：9月29日～10月4日 参加人員15名（前年比6名減）

第8回：10月6日～10月11日 参加人員19名（前年比2名増）

計118名（前年比16名減）

- ・改善を要する点：新たな対象分野の開拓
人的ネットワークの活用

③ グライダークラブ

4月下旬から11月上旬までの間、主として土・日曜日、祝祭日に飛行活動を実施

延べ飛行日数：75日間（前年比5日増）

飛行回数：1,606回（136回減）

飛行時間：1,096時間53分（9時間17分減）

- ・改善を要する点：道内会員の活性化

④ クロスカントリー・キャンプ

5月10日（土）～6月11日（水）の間、「クロスカントリー・トレーニング」を実施

延べ飛行日数： 3日（前年比 1日減）、 参加人数： 4名
参加機数： 3機、 総飛行距離： 720km
・ 検討事項： ミニ競技会の軽易な実施方法

(2) 各種受験に関する指導

① 本年は、学科試験合格者の都合により、次年度に延期となった。

② 日本滑記章及び国際滑空記章に関する指導並びに試験
スクール会員及びクラブ員に対して、次の内容の指導・試験を
36件実施（前年比16件増）

日本滑空記章 A章×9、B章×9、C章×10、
銅章×4

国際記章 銀章課目(5hr×3、1000m×1)

4. スカイスポーツに関する情報の収集及び提供

(1) ホームページの情報；

ホームページ年間アクセス数 56,165件（1月31日現在）
対前年比856件減

改善を要する点：冬季間のホームページの新鮮度の維持

(2) アジア観光客への対応

中国からの初の観光客が来訪した。更には、中国のエージェントと
次年度以降の事業の連携で合意をみた。

(3) FM-G ‘SKYへの出演

市民へのスカイスポーツ情報の提供

7月9日 イベント紹介

7月14日 市民体験イベント

7月18日 イベント紹介

7月21日 市民体験飛行中継

5. スカイスポーツに関する調査研究

(1) 古典機事業（再掲）

2.(5)を参照

(2) スカイネットワーク推進事業

農道空港を保有する余市町から積丹産の魚貝類を空輸して展示即売を実施し、市民の好評を得た。

- (3) 各種マニュアルの作成
技法の統一に関して、英国航空協会の推奨の技法を採用し、その統一を図った。

6. スカイスポーツに関する機材及び施設の整備

- (1) 航空機格納庫の拡充
格納機数の状況の変化により、事業を延期した。
- (2) I T 関連器材の更新・拡充
中古の器材を導入して事務機能の効率化を図った。

7. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

(1) 国際交流事業の推進

① 教官の派遣

南半球を訪れる日本人パイロットの教育を現地のグライディングセンターと協同して実施した。

期間：平成 20 年 12 月 20 日～平成 21 年 1 月 19 日

派遣人数：2 名（池田亨、日口裕二、）

派遣先：オーストラリア国コロワ・ソアリングセンター（池田）
ニュージーランド国オマラマ・グライディングセンター
（日口）

② 曳航機パイロットの招聘

各種飛行事業の円滑な推進のために曳航機パイロットを招聘した。

招聘者：ジョン・ブライス氏（オーストラリア国）

期 間； 7 月 30 日～ 9 月 13 日(6 週間)

(2) スカイパークの施設管理

指定管理者としてスカイパークの施設の管理・運営を実施

(3) イベントの支援

① 千歳基地航空祭

開催日：8月3日（日）
場 所：航空自衛隊千歳基地
主 催：航空自衛隊第2航空団
来場者数：70,000人
支援内容：地上展示

② 丘珠航空ページェント
開催日：9月14日（日）
場 所：丘珠飛行場（札幌）
来場者数：52,000人
支援内容：飛行展示、地上展示

③ 水防演習
実施日：6月21日（土）
支援内容：飛行展示
（軽飛行機2機、MG1機）

(4) 道内外の滑空団体への支援

① （社）長野市グライダー協会への支援
「平成20年度優秀選手招聘事業」への講師派遣
実施日：12月13日（土）
場 所：長野滑空場（長野市）
派遣講師：日口 裕二
参加者：35名

② 南紀白浜空の日イベントへの協力
実施日：9月21日（日）
場 所：南紀白浜空港（和歌山市）
支援内容：飛行展示
参加者：7,000人
主 催：南紀白浜空の日実行委員会

③ 北大鳥人間試験飛行への協力
実施日：9月27日（土）
場 所：たきかわスカイパーク
主 催：北大鳥人間研究会

協力内容：施設の提供

- (5) スカイパークを利用する航空機及び周辺空域を航行する航空機並びに関係運航管理者に対し、気象情報・飛行情報や整備サービスを提供

IV. 航空安全

飛行に関わるスタッフ及び会員の安全意識と行動に支えられ、無事故記録3, 651日を更新した